

研究の背景・目的

本県の海岸砂丘地にはクロマツ林が造成されています。このクロマツ林は冬季の季節風や飛砂などを防止し、我々の安心、安全な生活を保全しています。ところが、近年空中散布の中止などによって再び松くい虫被害が拡大しており、海岸クロマツ林の再生が大きな課題となっています。

本研究では、効率的で確実な海岸クロマツ林の再生方法について研究します。



研究内容（松くい虫被害跡地に進入する植生の把握）

松くい虫被害跡地に自然に侵入してくる樹木を調査します。そして、この樹木が侵入してくる条件や量などを把握します。

- ①調査区：15調査地を設定。1調査地あたり10m×10mの区画を3個設置。
- ②調査項目：侵入した樹木の種類、大きさ、地表面の被覆率など
- ③環境要因：汀線からの距離、標高、土壤養分など



松くい虫被害地



松くい虫被害跡地に自然に侵入したマサキ

研究成果の活用

この研究によって、松くい虫被害跡地に自然に侵入してくる樹木を有効活用することが可能になります。このため、経費の高い植栽を極力減らし、効率的な海岸クロマツ林の再生が可能になります。



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

所属グループ：森林保護育成グループ

担当研究者：山中啓介・林晋平

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207 問い合わせ先 0854-76-3820
chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名：海岸林再生に関する研究